

青山学院大学 ESS・OB 会会報

English Speaking Society since 1925

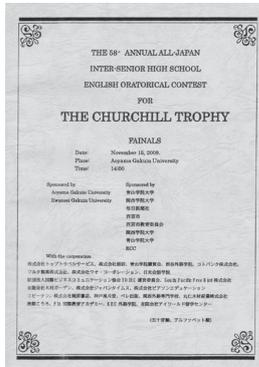
No.15 2010.8.23

第 14 回青山学院大学 ESS・OB 会 総会・懇親会開催される	2
わが母校「青山学院」をお訪ねください	3
青山学院 ESS の想い出	5
Little Charo2	6
ESS の仲間たちと今	7
1962-66 年卒 ESS・OB 五期会開催される	8
1977-81 年卒 OB 会開催 (大学卒 30 周年記念)	9
第 3 回コーディネーター会議開催	10
新旧 ESS 役員との懇親会	10
ESS・OB 会新入会員歓迎会開催	11
「あなたと青山学院」校友会誌	11
第 85 代部長に就任して	12
第 46 回大木杯を終えて	12
チャールズ杯開催にあたって	13
あれから私は (アンケート葉書による)	14
短歌・俳句	15
第 26 期会計報告	16
平成 21 年度 ESS・OB 会会費及び寄付金納入者	17
第 15 回 ESS・OB 会総会・懇親会開催のご案内	18
青山学院大学同窓祭のお知らせ	18
青山学院四季	19
青山学院 ESS OB・OG の店	19
近況報告	20
編集後記	20

チャーチル杯開催にあたって

第 59 回チャーチル杯実行委員長

古屋 達生



今回、第 59 回チャーチル杯争奪全日本高等学校生英語弁論大会の実行委員長を務めさせていただくことになりました古屋達生です。日本の高校生の英語能力の向上のために開かれたこのチャーチル杯も今年で 59 回目となり、毎年レベルの高いスピーチが繰り広げられています。

そもそもこの大会は、最初は関西学院大学だけで開催されていたものでした。それは本当の意味での全国レベルの大会とは言えず、例えば関東などの高校は出場できませんでした。しかし、青山学院大学がこの大会に協力することにより本当の意味で全国大会として開催することができました。こうした深い歴史や極めて大切な意味を持つこのチャーチル杯という大会の実行委員長を務めさせていただくことは大変嬉しいものであると同時に、大きな責任を併せ持ったものだと感じています。

またチャーチル杯はもう一つの大きな意味を持っていると思っています。それは、年代の壁、垣根を越えた大会だということです。大学生という立場でありながら、同年代のためではなく自分たちより下の年代である高校生の手助けをすることができる、高校生のための大会を催すことができる、このことは他の大会では見出すことのできない大変素晴らしいものだと実感しています。

また、青山学院大学 ESS・OB 会の皆様がこの大会に快くご協力してくださることで、私たち現役の大学生と青山学院大学 ESS の先輩の方々との垣根、そして出場者のスピーチを聞きに来てくださるご両親の方々との垣根も、この大会では存在していないと感じています。これらの垣根がない、多くの世代の方たちのご協力があるこのチャーチル杯というものは、他の大会ではない、チャーチル杯だけに存在する素晴らしい“繋がり”があると思っています。高校生、大学生、青山学院大学 ESS の OB の方々、そしてご両親の方々、これら多くの世代の“繋がり”を実感しながら大会を運営することができるということは大変幸福なことだと感じます。これを誇りにしながら、この大会の実行委員長としての責務も同時にこなしていくことこそが大切だと思います。

第 59 回チャーチル杯実行委員長として、過去の素晴らしい実行委員長の方々と名を連ねることができることに大変な嬉しさを感じます。そして、これらの素晴らしいものを提供してくれるチャーチル杯は唯一無二なものだと思います。



OB の 出版された本



心の宅急便

作者：ヒロコ・ムトー
出版社：中経出版
発売日：2009/9/1
定価：1,300 円

心の宅急便

ヒロコ・ムトー 相沢 紘子 (S43 年卒)

元駐仏日本大使に推薦文をいただいている本書は、まさに人との出会いの産物。年老いた母親が 88 歳より始めた紙人形を知ってもらおうと、知り合いのいないパリにて展覧会にこぎつけるまでの道のり。幸運な作者に「最後まで明るく生きた母の人生、いじめを乗り越えた娘たちと私の経験を伝えよう」とする伝道師を見るようです。「心の宅急便」はこれからも多くの人々に届けられていくことでしょう。

「大学時代は遊んでばかりでできの悪い不良学生だった」のに「英語が得意な連中ばかりの青山学院 ESS」OB 会報誌で紹介されるのにくすぐったい思いをされることでしょう。

ヒロコ・ムトーの広場 <http://www7a.biglobe.ne.jp/hirokomuto/>